

# Die (友情) Freundschaft

事務局：  
〒010-1632 秋田市新屋大川町 12-3  
秋田公立美術大学 野村研究室内  
<http://www.jdg-akita.org>  
(018)888-8110  
nomura@akibi.ac.jp

## 昔ばなし研究のルーツ ～ドイツ「グリム」の旅～

理事 塩田 睦子

チョコチョコ動き回る小さなネズミさんたちを見たのは、ちょうど一年前のことでした。ハーメルンの教会前の野外劇場で、毎年夏になると正午から日曜ごとに演じられている「ハーメルンのネズミ捕り男（笛吹き男）」のワンシーンです。

町にネズミがはびこって市民生活に大きく影響していたことから、まだら服を着た男が報酬をくれるなら退治してやるともちかけ、笛を吹いてはネズミを集め、川まで行進して一匹残らず川で溺死させることに成功したのですが、町では報酬の約束を反故にしてみました。怒った男は再び町に現れ、今度笛を吹くと、子どもたちがぞろぞろついていき、そのまま子どもが帰ることはなかったというドイツ伝説集に収められている物語です。市民が役者となって舞台に立ちますが、ネズミは子どもが演じます。物語の恐ろしさより、子どもがチョコマカ動く様がかわいらしく、つい微笑んでしまいます。町の至る所にネズミ捕り男やネズミのオブジェがあり、マンホールあり、お菓子もあり。町全体が美しく木組みの建物でメルヒェンそのものです。これが、旅の第一日目でした。

昔ばなしの成り立ちや語法などを学ぶ昔ばなし大学が企画した「グリム童話の研修旅行」（昨年7月30日～8月8日実施）です。フランクフルトに降り立ってからハーメルンまで北上し、ハーナウ（グリム兄弟の生誕地）まで南下しフランクフルトへ戻る、いわゆるメルヘン街道です。

以前からドイツ人は「森」が好きらしいことは感じていました。森が舞台のグリム童話も数多く存在します。「ヘンゼルとグレーテル」で、両親に捨てられた兄妹がさまようのは森の中です。



「白雪姫」が逃げきったのも森です。途中にとがった石やいばらもありますが、ここに登場する子どもたちが、なぜ子どもの足でもスイスイ先に進めたのか。ラインハルトの原生林に立ち寄ってわかりました。日本の森と違っていたのです。草がありませんでした。下草がないのです。それで子どもが走ることができたのでしょう。日本では生まれない、森の中の物語かもしれません。

森といえば「赤ずきんちゃん」も、森に住むお婆さんの家を訪れますが、赤ずきんちゃんは頭に何をかぶっていたのでしょうか。はい、その通り。答えは赤い「頭巾（ずきん）」です。で



ハーメルンの野外劇場

もこれは日本語訳で「ずきん」になったのであって、原語（Rotkäppchen）で直訳すると「赤いキャップの娘」だそうです。そのキャップとはどのようなもの？と、行って見たのがシュヴェアルム地方です。手仕事としての刺繍が盛んな地域です。女性の民族衣装をお披露目してもらいましたら、なんと、頭の上にチョコンとかわいい帽子が載っているではありませんか。若い人は赤、それ以降は黒い帽子です。これこそ本当にキャップです。納得しました。この地方の人たちはあの話はここの物語だと思っているようです。「頭巾」とはずいぶんイメージが違いますね。

このようにグリム童話にまつわる物語にイメージされる場所・お城やグリム兄弟の生い立



赤いキャップの娘（赤ずきんちゃん）の原型の衣装

ちから、彼らの学んだ大学や研究機関などを巡り、昔ばなし研究のひとつの足掛かりになりました。

現地でなければ得られないリアル感、想像の及ばない話の構成などを確認する旅でもありました。

旅の終盤にローレイに寄ることができました。妖女よろしく、かの伝説の有名な岩に座ってみました。昔は急流で船が崖に激突して難破することが多かったことから「あの崖には男を惑わせるローレイという妖女がいるという噂があった」という言い伝えですが、私が座った日の船長さんはかなり優秀でした。一時目が眩んだとは思いますが、難破のニュースは流れませんでした。



ローレイの岩にたたずむ妖女

## 《2017年新年祝賀会・講演会》

2月25日（土）18時から、新年祝賀会がビアレストラン「プラッツ」で開催されました（参加者38名）。講師は、潟上市「自性院」住職の鈴木道雄氏。テーマ「未来へ紡ぐ和の音色」と題し、鈴木氏が指導する「秋田子ども和楽器合奏団」が、2016年10月にパッサウ市とヴィルツブルク市を公演旅行した際の様子と和楽器を通しての子ども達への教育の想いについて、沢山のスライドを用いてご講演いただきました。



## 《ドイツ客船「Bremen 号」 船川港へ寄港》

5月20日（土）、男鹿市船川港にドイツの豪華クルーズ船「Bremen 号」が寄港。秋田日独協会有志数名、秋田公立美術大学・秋田県立大学



の学生および地元の中学生を含む全7名が、男鹿市観光商工課からの依頼で通訳ガイドのボランティアとして参加し、交流しました。



## 《秋田市国際フェスタに参加》

秋田竿燈まつりの最終日にあたる8月6日（日）、秋田拠点センターアルヴェ1階「きらめき広場」で「秋田市国際フェスタ～秋田市友好・姉妹都市交流展～」が開催され、秋田日独協会もパッサウ市紹介担当としてブースを出しました。ブースでは、ドイツに行ったことがある人、行ってみたいという人との話に花が咲きました。

このフェスタは毎年開催され、秋田市の友好姉妹都市を紹介する写真パネルの展示や食文化・特産品等を紹介するブースが出ます。

今年は、中国蘭州市と提携35周年ならびにウラジオストク市およびキナイ半島郡と提携25周年の節目の年にあたることから、秋田市は、「秋田市友好・姉妹都市青少年会議」を開催するため全ての友好姉妹都市の高校生等を招待しました。パッサウ市からは、Matthias Weigl くん(18歳)と Johannes Schmelz くん(17歳)、引率者として Hana Ziegler さんの3人が招かれていたことから、このフェスタにおいて、英



左から、Matthias（マティアス）くん、Hana（ハナ）さん、Johannes（ヨハネス）くん



パッサウ市の紹介をする3人

語でパッサウ市の気候や祭、食べ物などを紹介するとともにバイエルンの歌を披露しました。3人は、民族衣装ファッションショーのモデルにもなりました。

また、ドイツの食文化を代表するハム・ソーセージ、ビール、ワインのブースとして、(株)島田ハム様、田沢湖ビール様ならびにワインパラダイス・鈴木金七商店(株)様からご協力いただきました。Danke schön!



バイエルンの民族衣装と歌を披露

### 《Hana Ziegler (ハナ・ツィーグラー) さんにインタビュー》

8月1日～9日の日程で開催された秋田市友好・姉妹都市等青少年会議の引率者としてパッサウ市から訪れた Hana Ziegler (ハナ・ツィーグラー) さんにインタビューしました。

Hana さんは、2004年に青少年スポーツ交流で初めて秋田を訪れて以来、2010年、2016年そして今年2017年で4度目の秋田訪問になるということです。また、お父様の Ronald Ziegler (ロナルド・ツィーグラー) 氏は、長年秋田市との交流にご尽力くださっている方で、秋田に知人も多くいらっしゃいます。

Hana (ハナ) さんプロフィール



名前：Hana Theresa Ziegler

出身：ドイツ パッサウ市

身分：レーゲンスブルグ大学の学生

年齢：27歳

好きな日本食：すべて！(ただし、納豆以外)

—2004年に初めて秋田を訪れた時、どんな印象を持ちましたか。

文化がずいぶん違うと感じました。特に驚いたのはトイレです。シャワートイレのボタンがいくつもあってちょっと戸惑いました(笑)。日本食はとてもおいしいと思いましたし、秋田の皆さんは温かく迎え入れてくれました。ホストファミリーも優しくて、とても嬉しかったです。

—今回で4度目の秋田ですが、印象は変わりましたか。

変わらず良い印象のままです。空港で歓迎していただいたことに始まり、食事も相変わらずおいしいし、良い印象ばかりです。毎回いろいろなところを観光したので、さすがに4度目の秋田ともなると行っていないところを探すのが大変なくらいです(笑)。

同じ場所を何度も訪れたりもしていますが、竿燈は何度観ても本当に素晴らしいです。

—秋田で特に印象に残っていることは何ですか。

毎回同じホストファミリーにお世話になっているのですが、2004年に初めて秋田に来た際に、ホストファミリー先の4歳の男の子と身振り手振りでコミュニケーションを取ったことが一番印象に残っています。その子も今では18歳です。大きくなりました。

—苦勞した思い出などはありますか。

靴を履き替えることに戸惑いました。トイレで履いたスリッパを出た後もそのまま家の中で履いていたり、逆に部屋で履いていたスリッパをトイレでも履いていたり、いつも最初は混乱します。

—ドイツ（パッサウ）と日本（秋田）との一番の違いを感じることは何でしょうか。

日本人はとても礼儀正しいですね。電話をしながらお辞儀を何度もする人はドイツにはいません（笑）。時間管理も正確で、分刻みのスケジュールを立てているなどと思います。ドイツ人ももちろん時間厳守を大事にしていますが、その場の状況に応じて変更する柔軟性を持っていると思います。

—お父様の *Ronald Ziegler*（ロナルド・ツィーグラ）氏はパッサウと秋田の交流に長年携わっていらっしゃいますが、娘としてどう感じていましたか。

父は私の生まれる前から秋田と交流を持っており、我が家にはほぼ毎年のように日本人のお客様がいらっしゃいました。秋田からはもちろん、東京など秋田以外からもです。私は赤ちゃんの時から日本人にふれ合い、それをあたり前のこととして育ちました。

私の名前は *Hana*（ハナ）です。日本語の「花」

に由来しています。父が名付けてくれました。自分にとってとても重大なことである名前すら日本に関連しているのです。

父が培ってきたこの交流プログラムを、次は私が引き継ぐよう父と話しています。

—パッサウと秋田の交流について、望むことは何ですか。今後どのような交流をしてみたいですか。

まずは来年ぜひパッサウに来て欲しいです。昨年の夏はパッサウからの交流団が秋田の皆様にお世話になったので、今度は我々がお迎えする番です。

望むこととしては、若い世代の交流プログラムをしていければいいなどと思っています。独日協会は、何もしなければどんどん高齢化していきます。交流を維持していくためには、もっと若い人を新たに取り込んでいく必要があると思います。特に、スポーツを通じた交流はとてもよいと思っています。言葉がなくても通じ合えるからです。

—ハナさんは将来どんな職業に就きたいですか。

教師になりたいと思っています。できれば中学校の。専攻は物理ですが、全科目を教えられるようになることが理想です。

—将来の夢、あるいはやってみたいことは何ですか。

たくさん旅行をしたいです。行ったことのない国へ行き、たくさんの新しいことを吸収したいです。もちろん、交流プログラムを通じて秋田に来たいです。

—*Hana*さんありがとうございました。

## 《2017 年度定時総会・ワイン会》

7月22日(土)17時30分から、ビアレストラン「プラッツ」にて、定時総会を開催。続いて、今回は、久しぶりにワイン会を企画し、会員の椎川和恵氏(ワイン輸入元「稲葉」勤務)を講師に迎え、「ドイツワインのタベ」を開催しました。参加者は、36名(新会員4名を含む)。



## 《新会員紹介》

2016年度は、7名が入会。

阿部愛子さん、熊谷慶子さん、河村希典さん、柏谷正代さん、芳賀友子さん、近藤美穂子さん、関山大樹さん(学生)。

今年度(2017年)は、5名の方が入会(7月末現在)。

三浦晨昭さん、畠山健さん、小野美穂さん、沼田弘史さん、嶋崎麻莉亜さん(学生)。

## 《今後の予定》

・2018年2月：新年祝賀会。ニュースレターNr.8発行

ドイツ語で格言・諺：Im Wein liegt Wahrheit. ワインの中に真理あり、酔うと本心がでる。

## 《編集後記》

パッサウからいらしたHana(ハナ)さんにインタビューし、とても有意義なお話を聞けました。今回で4度目の秋田訪問とのことですが、14年前に初めて秋田を訪れた時は14歳だったHanaさんが聡明な女性に成長し、今回は引率者として再訪してくれたことに交流の歴史を感じます。

会員の皆さんからのメッセージやドイツに関する話題を投稿ください。送り先は、表紙の事務局の住所またはメールアドレスになります。

秋田日独協会ホームページ <http://www.jdg-akita.org>

## 法人会員

(株)秋田魁新報社様・(株)JTB東北秋田支店様・

(株)東北iツアーズ(旧社名：日本エアーサービス秋田営業所)様・(株)日本旅行東北秋田支店様